

学校の経営

1 学校教育目標

(1) 基本目標

自ら学び自ら考え、共に支え合い高め合える、心豊かでたくましい生徒の育成

＜校訓「立志大成」＞

～徹底をいとわず、夢の実現をめざし、未来に羽ばたく東中生～

(2) 具体目標（目指す生徒像）

- **やさしく助け合う生徒**（徳）・・・思いやり、支え合い、高め合い
- **自ら考え学ぶ生徒**（知）・・・学習習慣、学び合い、深い学び
- **たくましく健康な生徒**（体）・・・健康・安全、体力・気力、強い意志
- **夢の実現に励む生徒**（夢）・・・立志大成、進路実現、社会性

(3) 目指す学校像

- **安全で潤いのある学校**
掃除が行き届き、落ち着いた雰囲気の中で歌声やあいさつが響いている
- **学ぶ喜びを実感できる学校**
学習環境が整い、生徒が学習する意欲に満ちあふれている
- **地域と共に歩む学校**
学校と地域の交流を積極的に行い、地域の中の学校を意識し、地域に信頼されている

(4) 目指す教職員像

- **一致団結する教職員**
学校課題解決のために「チーム東中」の一員として全力で取り組む
- **信頼される教職員**
教育公務員としての深い自覚と高い規範意識をもつ
- **学び続ける教職員**
指導力・人間力向上のために常に学び続ける姿勢をもつ

(5) 学校生活の三本柱

- **あいさつ** ○ **5分前行動** ○ **環境美化**
- ＜当たり前のことを当たり前にする生徒＞

(6) 東中スローガン

Enjoy Active Study Try

- Enjoy・・・やると決めたら楽しく取り組む 何事も楽しもう**
(満足感、達成感、自己有用感)
- Active・・・自主的・積極的に進んで取り組もう**
(気づき、考え、実行する)
- Study・・・自分の周りの全てから学ぶ姿勢をもとう**
(謙虚、受容、継続)
- Try ...失敗してもいい とにかくやってみよう**
(勇気、強い意志、実行力)

2 学校経営方針

(1) 基本方針

学校・家庭・地域が一体となった信頼される学校づくりに努める。

- 生きる力を育むため、特色ある教育課程の編成・実施・評価に努め、全教職員参画の下、学校教育目標の達成を目指す。
- 生徒と教師が日常的に「学校生活の三本柱」を意識し、生徒一人一人を認め、励ますことで主体性を伸ばし、師弟同行の指導体制の構築を目指す。

(2) 具体方針

<安全で潤いのある学校>

- いじめ防止基本方針の下、いじめ防止に努め、良好な人間関係を築く力を育成する。
- 教職員の危機管理意識を高め、生徒の危機回避能力の育成を図るとともに、自転車の安全走行の指導に力を入れ、交通事故防止の徹底を図る。
- 道徳科の時間を大切にし、指導法の工夫や改善を図るとともに、学校の教育活動全体を通じて生徒の道徳的実践力を育成するよう努める。
- 教職員間、生徒と教職員、生徒同士の信頼関係の構築に努め、個々の生徒の良さを認め、積極的に声かけを行うとともに、教職員同士の情報交換を密にし、生徒指導委員会を充実させる。

<学ぶ喜びを実感できる学校>

- 学びを深める活動を取り入れた授業展開に努め、学ぶ意欲の育成と確かな学力の定着を図る。
- 新学習指導要領の完全実施(令和3年度)を見通した「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、常に授業改善を意識し、授業の中に考える場や表現の場を積極的に取り入れた授業展開を工夫する。
- 生徒一人一人が楽しく生き生きと活動できる豊かな体験活動を計画的に取り入れた行事や授業を工夫する。
- 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた組織的な支援体制を充実させるとともに、日常的に特別支援教育の視点に立った授業を心掛ける。

<地域とともに歩む学校>

- 各種たよりの定期的な発行やHPを充実させた情報発信に努めるとともに、地域に積極的に出向き、地域からの情報収集に努める。
- 学校の情報と地域の情報の共有化を図り、学校運営における地域との協働を意識した地域とともに歩む学校の実現を目指す。
- 小中連携や学校・家庭・地域連携を充実させ、学校と地域の交流を積極的に推進し、地域を知り、地域に誇りと愛着をもてる生徒の育成を目指す。

<「チーム東中」実現のために>

- 日常から『報告・連絡・相談 → 即対応』できるような指導態勢を徹底し、様々な問題に対して全職員で情報共有に努め、迅速かつ的確な対応を図る。
- 全職員が4ワーク(フットワーク、ネットワーク、チームワーク、ハートワーク)を機能させ、互いに連携しながら総力を結集した学校運営を推進する。
- 教職員一人一人が「自分の学校」という意識をもち、全教育活動を自分のこととしてとらえ、全教職員で協力して取り組んでいく。

3 本年度の努力点

(1) 確かな学力の向上

- 新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識しながら、職員一人一人が常に授業改善の意識をもち、授業の中に思考の場、表現の場を取り入れた生徒主体の授業づくりを展開し、教師自身の授業後の振り返り及び改善を継続していく。
- 授業において、生徒の課題に照らした「めあて」を示すことで生徒に学習の目的や見通しをもたせ、「振り返り」を行うことで生徒が学んだことを自覚し、次の学習への意欲につなげる。
- 学びを深める活動（課題の把握・課題の追究・意見交流）を通して、わかる喜びやできる喜びを実感できる授業を推進する。
- 各教科の授業で、生徒一人一人が主体的に課題に取り組めるための学習過程（東中スタンダード）を基本とした授業実践を通し、確かな学力、特に思考力・表現力の向上を図る。

(2) 豊かな人間性の育成

- たくましさや優しさを兼ね備えた生徒の育成を目指し、体験活動や道徳科の時間の充実を核とした内面を見つめるための事前・事後指導工夫・改善に努める。
- 朝読書の質的充実を図り、感性や情緒、知的好奇心等を高める。
- 地域人材の活用や地域での体験活動を重視した学習を継続して推進し、郷土に誇りと愛着をもった生徒を育む。
- 立志大成をめざし、夢や希望を持ち自ら未来を切り拓こうとする態度を育成するため、自己有用感が感じられる体験や活動を充実させる。

(3) 健やかな体の育成

- 体育行事や部活動に積極的に参加する態度を養い、有能感や達成感を味わわせるとともに、進んで身体と心を鍛える生徒の育成に努める。
- 心身共に健康な生活習慣（早寝、早起き、朝ご飯）の育成を図るとともに、性に関する指導を充実させ、自他の生命を尊重する態度の育成に努める。
- 生命の尊重を基盤とした危険予測能力及び危険回避能力を育成するため、防災教育を充実させ、日常の安全意識を高める。

(4) 学校経営の充実・改善

- 受容と共感に基づく指導や人権教育の充実に努め、生徒指導部会や教育相談部会を活用し、組織的な取組及び情報共有に努めるとともに、いじめ未然防止や不登校生徒の改善を図る。
- 教師自身が言語環境の改善を意識した実践に努め、互いに認め合い高め合う集団づくりを通して、特別支援教育の充実を図り、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係づくりに努める。
- 教職員の危機管理意識を高め、生徒の危機回避能力の育成を図るとともに交通事故防止の徹底を図る。

(5) 教職員の資質能力の向上

- 校内研修を充実させるとともに、一人一研究授業に積極的に取り組み、教師による日常的な授業公開を推進し、互いに授業を見合う機会を積極的にもつ。
- 勤務規律の確保と人事評価制度の適切な運用を通して、教師の使命感の高揚や職能成長を図る。
- 経験豊かな教職員からの実践的な知識や指導技術を組織的・計画的・継続的に若手教

員に継承していくための校内O J T体制を整備・充実し、実践する。

(6)小・中学校間連携の充実

- 校区内小学校と教育課程や生徒指導計画等の共通理解を深め、9年間を見通した各種計画の見直しや改善を行い、系統性・一貫性・連続性のある指導を推進する。
- 学校行事や授業の相互参観や合同研修会の開催等により、教職員相互の交流を計画的に推進し、小中学校間で指導観の共有化を図る。

(7)家庭・地域等との連携の充実

- 地域人材の活用を推進するとともに、各種連携会議や学校評価の結果等を有効に活用し、地域からの情報や意見を積極的に取り入れ、地域とともに歩む学校を推進する。
- 関係機関等との日常の連携を深め、学校課題の解決や緊急時における学校への協力・支援体制の強化を図る。
- W e b ページや各種通信の活用を通して、家庭や地域との情報共有の充実を図る。
- 公民館や地域のボランティア団体等と連携し、生徒の地域行事やボランティア活動への参加を推進する。

(8)教育環境の整備・充実

- 教職員の総労働時間の短縮、部活動指導時間の適性化、会議時間の見直し等を推進し、生徒に向き合う時間の一層の確保と心身の健康の保持を図る。
- 定期的な安全点検を実施し、教室・校庭等との学習環境を整え、安全で安心な学校づくりに努める。
- 潤いと安らぎのある教育環境づくりを推進し、校庭の植栽や花壇の整備、校舎内の掲示等の工夫と充実を図る。